

会長講演録—3

「コロナと生きる」後篇 — 実践の章 —

コロナと生きる

まほろば主人
宮下 周平

2021年1月20日の北翔大学で始まった講演会。2月23日のスタッフ講習会まで、計5回。3時間に及んだ「コロナと生きる」と題した内容を、前・中・後篇に分けて掲載します。

— 第一段 —

中国侵略防衛と自給農地取得論

一、恐ろしい！ 中共による

北海道侵略

曾て、隣町小樽の高台「水天宮」に道場と居を構えていた武術家の知友。彼から、小樽港を一望できる高台四カ所が、中国資本と親中派の日本企業に買収された、と知らされた。それは、戦後米軍の総司令本部の要塞跡や、湾内への船の出入を監視できる各重要ポイントで、端から端までが見事に抑えられていた。





片や道東で町議をしている知人から聞き及んだ話。白糠町では幼稚園から中国語教育があるほど、町は中国一色、ズブズブの長い友好関係。エネルギー施設（太陽光発電、バイオマス発電）や企業誘致も多く、釧路空港と釧路西港に挟まれた流通基地が町ごと抑えられている、と。中国側から見れば尖閣と釧路は第一列島線の両端を突破する最重要拠点だ。中国要人が必ず立ち



一帯一路構想の一部に組み込まれつつある釧路港



また、厚真の役所に勤めていた友から耳にしたこと。日高の奥地のアイヌ居住地も、少なからず外資にわたり、水源地も奪われていると。全道で2,411ha、何と東京ドーム515個分の水源地が買われている。川下の道民たちは有事の際どうするのだろう。中国本土では、いずれ飲料水が枯渇する、そのために。これは由々しき問題ではないか。

千歳国際空港や航空自衛隊（空自）に隣接している両隣もどういう訳か買収された。道内某大手メーカーが、中国人向けの居住区を家ごと販売、即売だが、誰も住んでいない。当初、1万人移住計画であったが、住民の猛反対で頓挫。住宅地には不要と思われるパラポラアンテナも要所所に立てられている。しかも、反対のJR東

ついでに 生きる

さらには、旭川の親戚からは、中心街の商業施設の主要ビルやホテルが何棟も買い占められて昔の街ではなくな

登別の卸先からは、洞爺湖周辺のホテルやゴルフ場の爆買い、苦小牧や白老・稚内にある有名校が中国傘下になって大勢の中国人学生が来日寄宿。200億円も注ぎ込んだアイヌ民俗館「ウポポイ」周辺に着々建造物が建ち治外法権化して怖い、との報告。テーマパーク「天華園」は、買収されて太陽光発電所に。

側の自衛隊駐屯地・警察訓練場の隣接地帯も発電所建設で、親中派の韓国資本に買い占められている。いわば、空港包囲網だ。



【ch北海道】現地レポート第9弾「室蘭・白老地区」アイヌ民族に忍び寄る中国の侵略[R2/12/17]



中国資本に買収されたテーマパーク「天華園」は大規模な太陽光発電所に。

「Ch 桜北海道」より

って来て寂しいと電話が入った。旭川のカムイスキーリンクス付近のアンテナ鉄塔の立つ自衛隊基地の隣接地帯が、人民解放軍の元軍人が契約したが、代金未払いで係争中である。国の防衛体制はどうなっているのか、不安が募る。



手が忍び寄るかもしれない。

そればかりではない。最北部、稚内野寒布岬の自衛隊分屯地のリーダーサイトが見える1km四方の喉元に、中国資本が風力発電建設のために買収。向こうはロシア国境沿い。何故、ここを買わねばならないのか。何故、国は、道は、自治体は、売却を許してしまうのか。



ニセコに住む治療院を営む旧友からの報告。今第二のリゾート開発で、著名建築家設計の一泊何百万もする超高級な宿泊施設が次々と建造され、最早どこか外国の居住地に変貌していた。日本人の手の届かない、世界のVIP専用と化しているらしい。

それよりも、仁木町の我が畑の横を流れる余市川から白井川へと続く隣の赤井川村で、突如中国のゴルフ場が富田地区に現れた。仁木も後継者不足で離農地も多数散在している。何時魔の



現・鈴木道知事が、夕張市長現職時代、旧名跡やリゾート地を超格安で中国資本に安易に転売したことは、あまり知られていない。

札幌の狸小路商店街に、国と市の肝入りで中華街を誘致して、飲食商業地区の賑わいを再興させる再開発計画を進めている。市民の思い入れの地が、外国人通りに変貌を遂げようとしている。



(写真上) 王岐山副主席と知事 (下) 国の登録有形文化財に指定されている「夕張鹿鳴館」を中国資本に売却した

元道議会議員の小野寺まさる氏の「北海道における中国侵略の最新情報」の倫理法人会講演会で、最新マッピングに、びっしりと黄色いフラッグが刺されていた。命を賭す氏の勇氣と正義を讃え、皆さんの手で広くこの事実が拡散されんことを。

今、中共の日本国土の爆買は、歯止めが効かない。



自衛隊や米軍の基地など安全保障上、重要な施設

安保上の重要地 中国系資本関与 700件を確認

政府は昨年、外国資本による土地売買の本格調

設に隣接する土地の調査で、中国などの外国資本が関与した可能性がある買収や売買計画を、日本政府が少なくとも700件確認したと、産経新聞が14日朝刊で報じた。中国本園や傘下の当局などが安保上の動向把握などを目的に買収に関与した可能性もあり、政府は関係当局に実態解明を指示した。

外国資本の土地取引が相次いでいる



一、32番目の中国省へ

「自衛隊や米軍の基地など安全保障上、重要な施設に隣接する土地の調査で、中国などの外国資本が関与した可能性がある買収や売買計画を、日本政府が少なくとも700件確認したことが5月13日、判明した」（産経新聞）。今更ながら、政府公式見解として、国民に報せるには遅きに失した感がある。

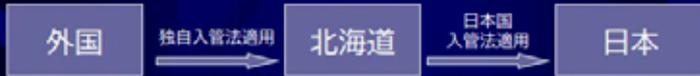
北海道人口1000万人戦略3

外国人来道者は道民の予備軍

■北海道独自の入国管理法を制定

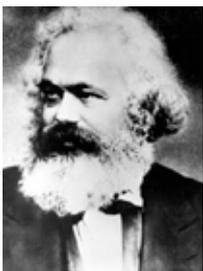
- ①今の研修制度を見直し、正式な就労者としてビザ発給
- ②短期観光客に対してはノービザ制度を投入
- ③住宅、不動産など購入した人は簡単に長期滞在ビザ発給
- ④世界の画家・音楽家などにアトリエ聖地にする。
- ⑤留学生を積極的に受け入れ、北海道に残る仕組みをつくる。

目標：観光にきたお客様が北海道に住みたくなるようにする
海に囲まれた島だから可能(第2の香港)、刑法強化



11

北海道チャイナワーク



中国本土メディアでは、「10年後、北海道を中国の第32番目の省にする」と、堂々と公表している。

●「北海道に限定し、ノービザ観光を実施し、観光客を増やす」

●「住宅など不動産を購入した裕福な外国人には住民資格を与える」

●「留学生を積極的に受け入れ、北海道に残る仕組みを作る」

●「研修制度を廃止し、正式な労働者として労働力を受け入れる」

などと、入管法の規制緩和を日本側に促している。

国土交通省と北海道開発局で発案された「北海道1,000万人計画」に、

平成17年(2005年)、株

式会社北海道チャイナワーク

の張代表によって「中国人

を五百万人呼び、北海道を

一千万人にする戦略」の構想

案を国と道が絶賛し、「夢未来

懇談会」を開催して発表した。

戦狼外交は、我々の知らない間に、国を抱き込んで、どれほど着々と進んでいるか。考えるだけで恐ろしい。



中国外務省から流出したとされる「2050年の極東地図」



二都構想の目的本質 2050 極東マップ

いみじくも、共産思想提唱者マルクスが自ら「地獄への道は、善意の石で敷き詰められている」と語った。国政を預る人々は、脇を甘くしてはならない。初めの善意は、やがて悪意に満ちていることを知るだろう。

中国資本に買収された森林や農地などは、推定で7万ha、山手線の内側の11倍以上の広さ。中国人集落が、自給自足の為の電気や水のインフラ整備や農地確保、不動産買収が、地下で着々と進行しているのは何故か。

正に「1,000万人戦略」は、架空の夢物語ではなく、現実路線なのだ。

「やがて、人民元を流通させ、五星紅旗を掲げ、軍事施設を設置し、人民解放軍が駐留し、計画的に中華州を造る。徐々に国籍を取得させ、選挙権や被選挙権を取らせ、そして立候補して議席を獲得、議会を抑える等々……」を、2017年2月、詳細に「産経新聞」が論説している。日本の大学を卒業した中国人エリートたちが、各中枢機関の重要ポストに入り、数年後政治・経済・文化界のトップに躍り出て、日本を牛耳る構図が、容易に予測できる。それを警告する書物や報道が、鰻登りに多くなって来ている。

正に、あからさまな「第二の香港化」、悪びれぬ「北海道乗っ取り計画」である。



このまま行けば、第二のチベット・新疆ウイグル・内モンゴル・香港になることは、自明の理である。大量殺戮ジェノサイドは他人事ではない。子孫の次世代で、悪夢が再現されようとしている。

我々は、何故安閑としているのか。何故黙っていられるのか。何故立ち上がらないのか。そして、問う。政府は、何故、規制を厳しく、法律で守れないのか。国民を守らないのか。

三、「静かなる侵略」で世界を敵に回す

2018年、豪州のクライブ・ハミルトン教授著『SILENT



INVASION(静かなる侵略)』には、中国人移民や経済進出により、国土の1・3%、

20年と生きる

け出を義務付けし
たものの、
公明党と、

だが、3月26日「重要土地規制法案」を閣議決定し、国籍調査や事前届



しかし、日本への「静かなる侵略」は豪州の比ではない。1995年、中国・李鵬首相が、豪州・キーティング首相に「日本という国は40年後（2035年）無くなってしまいかもわからぬ」と告げたことが、参議院・国際問題調査会で発表された。

韓国国土ほどが買われるなど、国内政治や安全保障などが気付かぬうちに侵食されていた現実が描かれた。その意図に気づいた豪州では、抵抗反対運動が盛り上がり、外資による農地取得のハードルを上げ、「重要インフラ保安法」を成立させ、「外国影響力透明化スキーム法案」に着手するなど、中国排除に乗り出し、戦争の火種になりつつある。中国が牛肉やワイン、石炭など豪州品不買運動で報復するなど、「国交断絶」前夜である。

中国では2010年に「国防動員法」が制定され、国内外の国民は、軍人でなくても、「国家の一大事には、中国政府の命令に従い国防義務を負う」とされた。有事の際、日本国内に住まう中国人が破壊軍事活動を行う可能性は極めて高い。既に長野冬季オリンピックの時には、反日行動の兆候が見られた。

「日本国」の基地や原発の監視活動などをする隣人...」こそ問題であるのに、日本人でなく、隣人（中国人）を保護しなければいけないというのだ!!

与野党の親中・媚中派は、「個人の権利を侵害する恐れがあり、経済活動が進まない」と反発阻止に回った。目先の経済を選んで、遠くの孫・子の幸せは選ばないのか。この危急存亡の折に、何ら対応策が進まないのは何故か。ある反日党首（社民党）は、売国奴まがいの発言を放った。「基地や原発の監視活動などをする隣人などの情報を提供せざるを得なくなる恐れがある」と。何を血迷っているのか耳を疑う。「日本国の基地や原発の監視活動などをする隣人...」こそ問題であるのに、日本人でなく、隣人（中国人）を保護しなければいけないというのだ!!



仁木町では、トマトや果樹農家が、JA 幹旋の中国人女性との集団見合いで、多額の幹旋料を払って、何組も結婚し、日本国籍を取得、間もなく、金品を持ち出して一斉に消えてしまった。毎年、国籍を取得した行方不明者が5,000人ずつ増え続けているという。既に、5万人が地下に潜伏して工作活動をしている可能性があるとされている。なお、2020年末、中長期で滞在している数は、78万人弱である。

外国資本による土地購入に対する法規制は日本が最も緩い

×取得不可 △一部制限 一制限なし

中国	×	土地所有権は原則、国家に帰属。外国企業の現地法人が国の審査を受けた上で土地使用権を得ることは可能
韓国	△	外国人土地法、軍事基地及び軍事施設保護法等に基づいて、許可申請と届出が必要
オーストラリア	△	外国人・外国法人が一定額以上の投資による土地取得に関しては、政府への通知・承認が必要。投資額の関値をなくす法改正も検討中
スイス	△	住宅地と未開拓地は州の許可が原則として必要。別荘の外国人枠は1500件のみ。外国の不動産会社が住居の賃貸目的で不動産を取得することは禁止。無許可取得は登記不可、取引無効
アメリカ	△	空港、港湾、軍・政府施設の周辺は連邦政府の審査が必要。4割の州で州法による土地売買規制がある
フランス	△	外国人による150万計以上の土地、ワイン用農地は事前届出が必要。国防の観点から私人の土地所有権制限が可能。政府は外国または外国機関への贈与・譲渡について異議申し立てが可能
イギリス	—	原則として土地の最終処分権は政府に帰属し、所有者は保有権を持つのみ。土地を有する外国企業に対し、実質的な所有者や管理者を政府に登録し年次更新を求める法案が提出されている
日本	—	所有において規制はなく、利用上の規制も実態上、かなり緩い

政府は、官邸主導のFTZ（自由貿易試験区）、IR実施法（カジノ法）、移民法など、

分野を問わず、規制緩和によるグローバル開放路線を標榜してきた。

2017年国交省は、外国人向けの手引書

「不動産事業者のための国際対応実務マニュアル（別名売国マニュアル）」を作成した。

国籍を問わず、自由に土地購入が出来るのは世界広しと雖も日本のみで、外国資本の土地所有に対しての禁止規制も、使用・収益・処分は自由なのだ。有り得ない世界の非常識が、日本では罷り通っている。



四、日本は、スパイ天国と共

に「不動産天国」

「武器なき戦争」、正に合法的に国土侵犯が強行突破されている。治外法権の非干渉地帯、即ち中国自治区が次々と生まれ、連携されるだろう。尖閣・竹島の外圧脅威でなく、国内の隣村から内部崩壊・外国譲渡し



中国の侵略ルート③ 東京・首都圏

中国に租借権（使用权）がある北朝鮮の2つの港
 羅津（ラジン）港 2005年から50年⇒2055年まで
 清津（チョンジン）港 2012年から35年⇒2047年まで

佐渡島 大規模な土地の買収（道の駅を1円で中国側に売られた）
 新潟 信濃川沿いの土地5000坪買収（中国総領事館建設予定地？）
 群馬 佛光山寺による大規模な土地買収
 （台湾の宗教団体）
 中国・台湾「反日同盟」結成で贈与する佛光山寺の開祖「星雲大師」
 「台湾に台湾人はいない。みな中国人だ」
 と発言した中国寄りの人物

東京・首都圏



て来ているのだ。

国民一人一人が立ち上がらねば、誰がこの国を護れるというのだろうか。

何千年、何万年と続いて来た祖国日本を、そう易々と他国に手渡していい訳はない。

尖閣にかけての無人島が既に10島以上も売却された。壱岐も対馬も既に侵入、虎視眈々と島ごと狙われている。佐渡も新潟も主要中心地を買収され、そこを突き抜け、東京目にかけて中国羅津港からの侵攻ルートは既に築かれた。

今何よりも、尖閣が絶体絶命の危機に瀕して



いる。孫子の兵法、「釜茹之法」で、毎日じわじわと領海侵犯を重ね、揺動作戦を展開している。武器搭載の海警に、日本は為す術を知らず、「遺憾」「懸念」と逃げ腰の政府。外務省の腰抜け対応は、何と今や中国側擁護に廻って、日本漁民や反対派を牽制している為体だ。

日本発世界的アパレルメーカーは、「支持釣魚島是中国固有領土」（尖閣諸島は中国固有の領土であること）を支持する」と垂れ幕を貼って、中国を支持。しかも、米国が、輸入禁止にした強制労働の新疆綿（ウイグル綿）使用についての公開質問に回答を示さないま

つぎに 生きる

だが、森林買収の全国31件の事例中、北海道は26件、全国の94%にも及ぶ（令和2年5



まだ。商利を取り、人義を斬り、日本を捨てた。「核心的利益」ならば、人の物は自分の物。中国とはそういう人道無き国である。ウイグルの民族浄化、南シナ海の人工島建造、香港の域外適用と着々と実効支配。次に台湾、しかし与し易い尖閣が先に危ない。今しか、この2年内外しか、防御権益はないのだ、どうする日本政府よ。

一方、国内の外資系企業に依る森林買収が、この5年間で5,255haに及ぶという。東京ドームの1,100個以上、東京ディズニーランドの約100個分。東北地方では1,250カ所を超えるメガソーラー、風力発電運転または予定を、経産省が許可している。森林は、国土の保全、災害の予防、生態系の保全、水資源の貯留、水質の浄化など、一度破壊されたら元に戻すのに何千年とかかる。

月8日)。北海道が、先ず日本略奪の最初の標的にされているのだ。

いくら言葉で訴えても、いくらデモで反対してもダメなのだ。

「中国が高く買 い上げてくれるはずだから、仁木の

森林原野を今のうちに買い占めておきたい」と目論む人が、身近にも居る。利権のある所、人はどこにでも群がる。節操なき現実が、後々子孫の代に取り返しのでつかない悲劇を生むのだ。

土地・建物所有の方は、法外の高値で交渉してくるも、外資や、そこに連なる国内企業には絶対に売却しないで戴きたい。

日本を除いたG7とEU、豪州も対中強硬シフトを敷く最中、何故日本のみ毅然と出来ぬ。この国家存亡の難局の今。確固として個人や団体の利害得失を超えて国防意識を持たれんことを。



中国海軍が初の強襲揚陸艦「075型」の進水式を実施した。4/25

五、子孫のために美田を買うべし

彼の西郷南洲翁は、「子孫のために美田を遺さず」と言い残して、世を去った。

だが、今あえて言おう。

「子孫のために美田を買うべし」

それは、日本の子々孫々、國家の為である。

「今こそ、農地を取得すべきです。これからは、農業です」

雨後の筍のように、増殖しているYouTuberたち。世界中の情報を古今東西に亘って、收拾し披歴している。今日までマスメディアに情報操作、人心誘導されて来た国民が、TV・新聞から離反しつつある。朝日新聞は創業140年以來、最

大赤字441億円を出すほどメディア業界は斜陽凋落、統計学的に新聞業界は、10年の余命と言われている。フェイクとファクトが玉石混交するとはいえ、SNS媒体によ



り、リアルタイムの生情報と接し、自らも発信出来る新時代。その結語、何をどうすべきかを明示する論客、発信者は居なかった。

そんな中、中々見所の有る若者が出て来た。そして、問題提議とその解決法を示したのだ。

それが、「農地取得」だった。

「資産があるなら、紙屑と化さぬ前に、現物、優良農地に代えよ」と、訴えた。それは資産価値の保持でなく、日本再建のためであり、農業の第一次産業こそ、日本を、若者を、蘇らせる唯一の手段であることを訴えている。

金融アナリストの経済通であり、農業実践者として、机上の観念論者、理想論者ではなかった。

「金融という株を売買して勝ち組になることの虚妄。夢幻の株に、人生をかけること自体、敗北。真つ当な人のすべきことでない。自分の人生は、自分の魂と体でしっかりと受け止めて、進むべきだ!!!」と訴える。

「世の中は金じゃない。あなたの魂の輝きだ!」と。

六、自地自給、自働自足を今

「土に帰る」

この「原点回帰」こそ、これからの政治スロー



財があるも、それは信用経済、架空貨幣の紙屑でしかない。等価交換する実体・実物が無い幻に早く気付くべき。有るべきものが無く、無いものを有ると錯覚している金融社会なのだ。

終戦直後(1946年度)の食料自給率は、88%もあった。だが、20年後の65年には73%の水準記録。以降、緩やかに下が

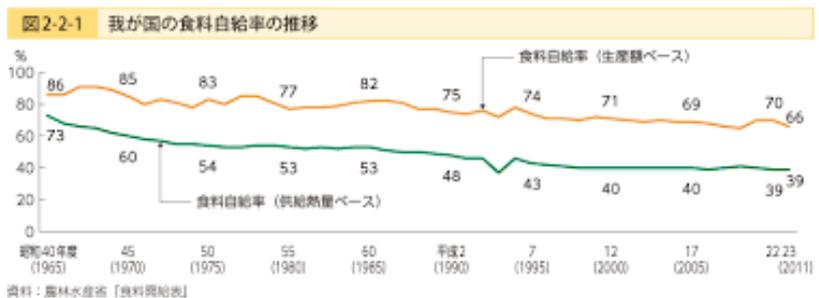


ガンである。まさに二宮尊徳翁の「農本主義」であり、福岡正信翁の「国民皆農」運動の現代版なのだ。

日本が丸裸になった時こそ問われるのが、国内自給率。既に、40%を切った日本。蓄

り、2000年度以降は40%前後で今日まで横ばいで推移。一方、海外に目を転じると、カナダは264%、オーストラリア224%、アメリカ130%、フランス127%(2013年度、農水省試算)。日本との差は歴然。これが国力、底力なのだ。GDP・国内総生産の付加価値に踊らされ浮かれてはならない。生き永らえる原動力FSR(food self-sufficiency rate)の自給率こそ、真の豊かさ、国の活力なのだ。

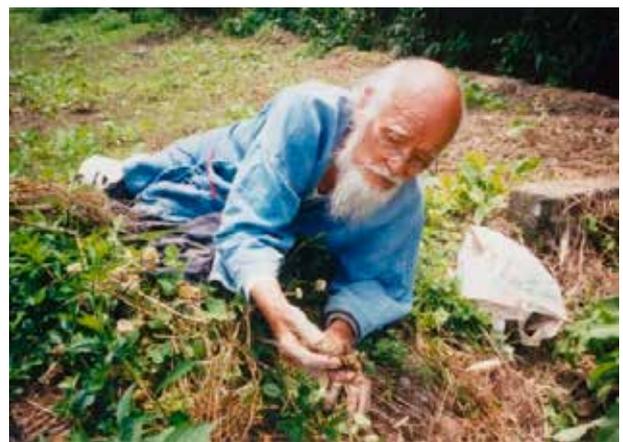
各国が輸出停止となった有事に、食べ物で生き延びる原資がない。いざという時、精神でも、紙幣でもない。土壇場、食なのだ。国産飼料に切り替えると、10%以下に下がる肉類。主食と並ぶ小麦、大麦、大豆等の生産





率も10%内外。休耕地田畑を復興させる政策を早急に立てる必要がある。

農産物輸入世界一、食品廃棄ロス率アジア一、農業従事者5年で40万人減少(宮崎市の人口)、平均年齢69歳、畑減少(ほぼ岩手県全域)、40年間で159万ha田



年間農業所得120万円。この日本の危機的農業現状では、何をやっても立ち上れる訳がない。ここを切り返さねば、ここから手を付けねば、日本の未来はない。

第一次産業の立て直し無しに、第二次・第三次産業の立て直しは不可能なのだ。いかにAIもITも進化するも、あなたの身一つさえ長らえさせることは出来ないのだ。

今、日本には70万haの耕作放棄地がある。単純計算、1家族1ha×70万〜100万人帰農すれば、日本は蘇るのだ。福岡翁は更に狭い「一反(約100㎡)百姓」を提唱された。国民運動として、日本を蘇えらせれば、国家侵略の不安も解消、自給率100%も夢ではない。

政治家は、目先の政略に汲々する勿れ。遠く

を見通すべし。根本を見据えるべし。

五十年先、百年、いや千年先を見通す大計を抱き、自力自国で日本再建を志すことこそ、最優先政策ではないか。それこそが、国の底力となるのだ。

金塊を保持するだけでは、何も生まない。だが、土地は、「一粒万倍」。無から有を、虚から実に変える。

この世の明らかな黄金律であり、幸福への最短距離なのだ。

七、例えば、

仁木町

私達が入植した仁木町。ここは、日本一就農率が高く、移住しやすい果物の町として知られている。

それは、農業者の資格（普通2、3年の農業研修が要る）なしで、わ



ずか2反（約

20アールで約

200㎡）の

田畑から入植

できる。常住

営農の意志が

条件。半農

半Xもよい。

無論、農地を

広げることが

可能だ。ここ

も後継者不足

で、離農廃業する人々も多い。折角の肥沃なる

跡地を受け継ぎ、次代に繋いでいったらどうだ

ろうか。札幌にも高速で、40〜50分で行けるア

クセスの良さ、都市近郊村である。余市の海も

眼前、山の幸、海の幸も豊富で快適だ。

今、日本を狂わせている原因の一つが、一極

集中の都市中心文化にある。

政治経済、文化教育、ありとあらゆるものが、

都会でなければ、成立しない仕組みが、国民全

体の心を次第に歪ませてしまった。この分業と

いう効率化・合理化が、近代文明の原動力となっ

た。が、逆に情緒の不安定、健康不安、幸福感

の欠落に連なった。人は、自然を伴う生活なし



に、元々体内リズムが狂う仕掛けになっているのだ。都市というグローバルリズムと地方という

ナショナルリズムの調和が大切。地方が生きてこ

そ、中央が生かされるのだ。その逆流が、現代

の不毛を生んだ。

八、The Great

Reset 危機到来!?

1945年8月15日大

東亜戦争終戦。

その年の6月に生まれ

た私の家内。その10月。

船大工の棟梁

で流下式枝条

架塩田法を手

掛けていた義

父が、鳥取の

山を取得すべく契約の手筈を終え、

明日にも金銭の受け渡しを行うはずだった。ところが、明けて翌日、

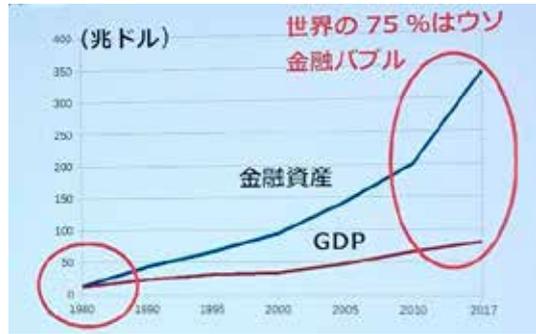
金融崩壊。その字の如く一朝にして、

預貯金が紙屑と化した。寝耳

に水、聞きしに勝るインフレであつた。



ついでに
来る

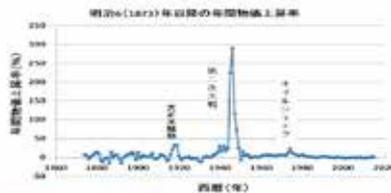


それが3年半続き、消費者物価指数が約100倍になった。何と100円のリンゴが、1万円もしたのだ。あの裏千家の大宗匠・千玄室老師が自伝の中で、「月給15円で、コッペパン3個しか買えなかった」と、戦後の講師時代を回顧しておられた。

1973年金本位制は終了し、管理通貨制度が本格化した。1980年前後は、GDPと金融資産は一致していたが、40年後の今日その格差が4倍にも開き、75%は虚構の世界に化した。つまり米国中央銀行FRBや日本銀行が、実際の金の何十倍も紙幣を刷って实体经济は消失した。その差は年々開き、遂にはある日、バランスが崩れ、金融バブルが起こることは当然予測される。米ドルが崩壊すれば、預貯金が紙切れとなる。国家破綻は、連鎖反応で世界中至る所で起るだろう。

今回のコロナ対応で、世界中でどれほどの紙幣が刷られたか。また刷らねば、緊急事態の要求に応じられるはずもない。このまま2027年頃までに無制限の量的緩和が続き、そこからインフレ、それも桁違いの「ハイパーインフレ」が襲来し、リーマンショックの100倍規模の金融危機が到来する。

The Great Reset 危機到来



1945年10月から1949年4月までの3年6か月の間に消費者物価指数は約100倍となった(公定価格ベース、開価格は戦中既に高騰していたため戦後の上昇率はこれより低い)。戦後のインフレは年率59%であった。1947年のインフレ率は125%となった。

日本人が狙われている!!!
預金封鎖
ユダヤ知識層に学ぶ“思考”と“対策”

!?



近頃ハイパーインフレ! 預金封鎖も
コロナ対応で現実味。財政破綻に備え、自分の資産を守ろう

重ねて、「預金封鎖」もあり。この物価高に加えて、貨幣価値が喪失し、加えて預金が使えない。周りから、何もかもが消えてなくなる。身包み剥がされて、野外に放り出される我々庶民。

どう足掻こうとも、今から対策を講じなければならぬ。世界はおろか、国内は大混乱で、何が起るか予測不能。

紙幣をそのまま銀行に、たんす筆筒に眠らせても、何時か役立たなくなる日が来るかも知れない。

この不安の今こそ、何に投資すべきかは、もうはつきりとしている。

一番安全な資産こそ、「優良農地」である。

九、「ダーチャ」？ 「アナスタシア」！

6、7年前になるだろうか、千葉の高田造園にて自然再生の講習会があり、そこでロシアの「ダーチャ」を紹介された。初めて聞く名称である。

8割ものロシア人が、このダーチャ「菜園付き別荘」を持ち、週末には必ずここに出向いて、



高田造園の「自然再生講習会」で、家内の作業

農園や家の手入れをして過ごす。一年分の食料のほとんどをダーチャで自給し、保存食を作る。

1991年のソ連崩壊時、給与が支払われず、翌年92年に超ハイパーインフレ率2150%で紙幣が紙屑に化した時でも、ロシア人は飢餓で苦しむことはなかった。それは、このダーチャ生活と備蓄のお陰だったのだ。家も家具も畑も道も、その他もろもろ自分たちで手造りする文化、地球に優しいスローライフの世界が、自らを自らが救ったのだ。

今、この同じロシアで発刊された「アナスタシア」が、世界中で話題になっている。そこには、一家族が1ha(ハ)の土地を手に入れて歓びと共に整備することで、全地球は菜園に変わる、と記されている。

だが、何者かによって、6千年もの間、本能

的に大地や植物に惹かれる気持ちや理解を根絶させるためにあらゆる計画がなされ、他の情報を取り込む事に意識を向けられ、エネルギーを消耗して人生の幕を閉じるように仕掛けられた、と本には書かれているのだ。

人生の答えは自然に有ることに、眼を背けさせた。この正体こそ、世界を操る国際金融資本家のルーツではないか。

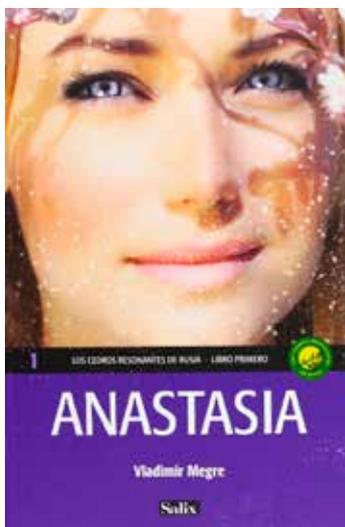
曾てのロシアと今の日本の状況が、似ていると思いませんか。

皆で農地を取得し、開墾し、自給自足の準備を始めませんか。

もうすぐ、食糧危機の時が訪れる。

それは、確実に早まっている。気付いた時には、すでに遅いかも知れない。

今や、未曾有の国難です。



つぎに 生きる

今こそ、北海道の土地を、日本の土地を、国民で買い戻そう。
外資を阻止し、侵略から守り、本来の日本に取り戻そう。

今すぐに始めねばならない。
日本全体をダーチャ化しよう。
食糧を、日本人の手で作らしましょう。



金銭に裕り有る方は、若き新規就農者に土地を提供して上げてください。
日本の未来に、無限の夢に、投資してください。
私たちは、新規就農者の為に支援をしていきます。

対抗策は、これしかありません。
自衛策は、これに尽きるのです。

国が動かないと、何もかも人の所為にし、愚痴るだけでは、何事も変わりません。

先ず、自分が動く。

自らが動き、自らが買わねば、身銭を切らねば、本気にはならない。

微々たる足取りかも知れないが、この点が、線となり、面となり、立体となる。

このウエーブが、ウエーブを呼び、必ず全国津々浦々に行き渡る。

既に、小さな拠点がいくつも出来ている。

既に始めている人たちも大勢居る。

網の目のように繋がるのは、時間の問題なのだ。

今こそ、蹶ち起ろう!!!



JT 生命誌研究館名誉館長中村桂子氏作
「生命誌マンダラ」

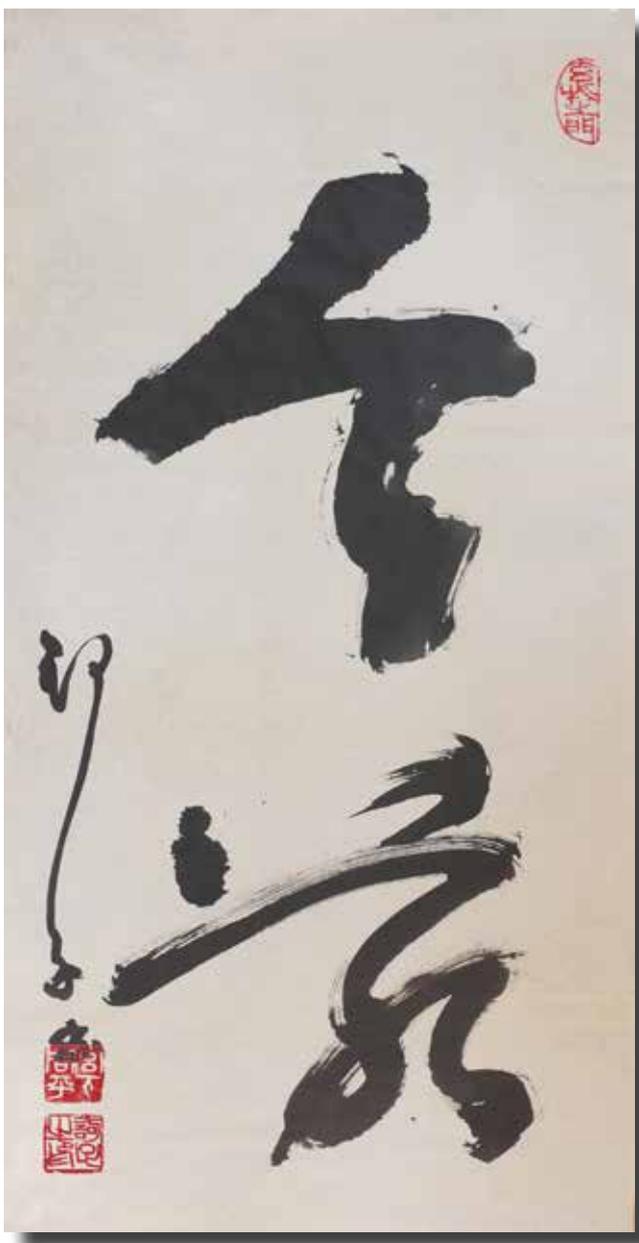


— 第二段 —

天地自然と 生きる

十、「今、茲」に

さて、毎日、農作業の中で、書にしたい言葉や詩が生まれます。その「農書寸言」の一つがこれです。



農書寸言

— 日々の農作業で閃いた語を、一書に託して

「今、茲」

出たくないなー
仕事したくないなー
仕方なく家を出る疲れている朝
風が一陣、サアと頬をなでた

すると、一瞬で吹き飛んだ怠惰な思い
サッキの自分は誰だったのか？

清々しい空気が、全身を駆け抜ける
キラキラした光が、一直線で心に差し込む

まばゆい！
アア、あったかい！！
パツと、場が変わった

億劫な仕事が、

一時間、二時間、お昼には、楽しくて仕方ない
そして、夕方、みんなと別れる頃には、
これぞ、我が天職！！

と、ばかり有頂天になっていた

いいなー、大地って
これ以上、何にも要らないなー
一日で、こんなに変わってくれる自然って、
何て、スゴイんだー

イヤイヤだった朝の一瞬、
その半歩・一歩が、
背中を押してくれた

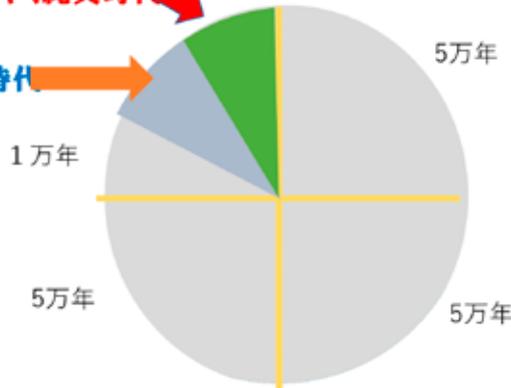
何でもない、あなたの
その「いま、ここ」こそが、
光りだす

人は外で暮らすDNA

ホモ・サピエンス・人類史20万年

戸内 2万年前からようやく縄文時代

4万年前から岩宿時代



戸外

十一、人は外で暮らすDNA

私達人間・ホモサピエンスの誕生の歴史は、脱アフリカから20万年と言われている。(諸説あり)

16万年を経て、ほぼ3万8千年前の岩宿時代を経て、1万6千年前の縄文時代から現代に至る。竪穴住居の縄文早期には、初めて住居という名の付く物が建造されて家に入った。

言ってみれば、岩穴や樹上などから、自らの建造物で内に籠った記憶は、ごく最近のことで、そのほとんどが戸外で雨露を忍んで過ごしていたことになる。寿命も、当然短かった。

地上に姿を現したその19/20は、人は自然と共に外で、生活して居たことになる。

全くその心は解き放たれて、自然と一体だったのだ。

我々の遺伝子の中の記憶は、ほとんどが外の光景であり、交渉であり、一員なのだ。だから、戸内の生活や仕事は、本来苦手なのだ。それは、記憶にないから。喜びや幸せからかけ離れる不安と生理反応が起こる。都会での会社勤めは、本来最も遠い仕事でもあったのだ。

十二、五大は、天理即生理

古来、東洋の哲学宗教では、この天地自然は、「五大」のエLEMENT (ELEMENT) で成り立っている、と言われています。



古代ギリシアの哲人たちも異口同音に伝えていきます。

それは、何でしょう。

地・水・火・風・空に加えた識、六大でもあります。

● 地

裸足になって、大地に立てば、体中の鬱とした重たい気が、地にスウーとアースされ、毒気が抜けてしまいきます。外で、兎に角、足を使って歩かせんか。大地とピツタリ重なり合う自分が居ます。大地のエネルギーを足から吸い込めば、我は母の地に帰るのです。



り雪となって山から始まります。水は、天地の旅に誘います。

● 火

正に、太陽。その日差しこそ、万物を生成化育するエネルギーなのです。この日差しを存分に体内に取り入れる。燃焼のエネルギーこそ、活動の源です。日に当たる、陽を浴びる。殊にビタミンDは、射光の栄養素、免疫のバネ。冬場には、外に出て大いに太陽の恵みを浴びねばなりません。

● 風

澀む空気、籠る気持ち。それを取り払ってくれるものこそ風の勢いです。清浄に払拭してくれる原理こそ風の力。心の迷いを一掃してくれる外の風こそ、大いに当たるべきなのです。「五風十雨」は、泰平の世の象徴です。

● 空

小さい家の空間に、自己を押し遣るとその鑄型の心になります。

5 ELEMENTS



● 識

一旦外に出て、碧い空を見上げれば、広々とした天地一杯の心になります、自分になります。自然が、大いなる自分となる不思議な一瞬を知りましょう。

識とは意識であり、こころの事です。自然を作りなすこの五大に慣れ

親しめば、自ずと心は天地の心、自然の体になり、自己が開放されます。清々しい、広々とした本当の自分に戻りましょう。

それには、自然に帰ることです。

古代の人々は、自然の中で暮らし、自然と共に暮らして幸せでした。

私たちも、幸せになりましょう。

天地と人間とは、原理も構成も一緒だったんですね。清浄な光が、やがて歓喜の光と輝きだします。

〔新規就農2年生日記「地水も火風もあの空も」まほろばだより2017年8月参照〕

つぎに 生きる

人類の発生

12月31日
23時58分
43秒に！

地球の新参者。
進化の結晶。



十三、人類の発生

地球が誕生してから46億年。果たして、人類は何時誕生したのでしょうか。地球のスタートを、1月1日の0時とします。すると3月初め頃、生命らしきものが誕生します。そして5月の初めに光合成のシステムが出来てシアノバクテリアなどの藍藻類が発生し、9月の初め15億年前には真核生物が誕生します。11月の終わり頃になって、海から陸上に生命が進出出来ました。そして、除夜の鐘を撞く77秒前の12月31日23時58分43秒に人類がこの地上に誕生するのですね。

人類は、今生まれたばかりなのです。

地球の主宰者のような顔をしています、とんでもない新参者も新参者、オギヤーと泣くだけの赤ん坊なんですね。ウイルスやバクテリアの微生物は、言ってみれば大大先輩な訳で、頭が上がらない。彼らは、ミクロの巨人。マクロの大集団な訳です。私たちの人格は、彼らの組織体で、自分であって、自分ではないのです。頭のほんの一部だけが自分と錯覚しているだけで、あとのほとんどは、彼らに牛耳られているんです。むしろ彼らその物と言っていていいでしょう。

人を構成する細胞の90%は、人の細胞ではなく、細菌だったのです。そしてその遺伝子の45%はウイルスだったのです。そして、人の腸は、一つの生態系であったのです。

だから、コロナウイルスなんて怖がることとは無い。生きても死んでも、彼らとともに38億年の旅をしているんですね。むしろ一緒にその太古に戻る訳です。それは、地球誕生の以前にまで戻れるのですから。



再びとコロナ・ウイルスを問う

十四、医学の錯覚と妄信の原

因

自然医学の故・

森下敬一博士が、現代医学を切り拓いた先駆者を引き合いに出され、名指しで批判されて

いました。その人こそ、現代病理学の父と言われたルドルフ・ルードヴィッヒ・カール・ヴィルヒョウその人であった。

しかし、最後にヴィルヒョウは、「私が、もし人生をやり直すことが出来るな



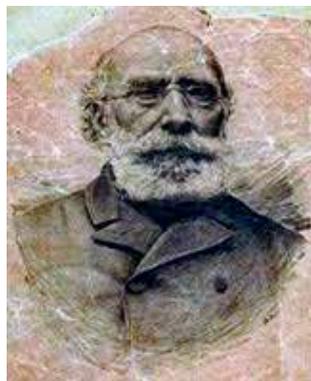
カール・ヴィルヒョウ (Rudolf Ludwig Karl Virchow, 1821- 1902 年) は、ドイツ人の医師、病理学者、先史学者、生物学者、政治家。白血病の発見者として知られる



ら、細菌が病気の原因ではなく、病気の組織という本来の生息地を求めていることを証明するために人生を捧げる」と言い残して、この世を去った。まさに、病原体の原因説は、ゴミに集まる蠅はえは、ゴミの原因ではないという事だ。

だが、彼を引き継いだのが、同時代のルイ・パスツールであった。彼は、

「病原体が、病気の原因である」と宣明にした。一方、その説に対峙したのがアントワース・ベシャンであった。「病気は、免疫システムの反応である」と反



アントワース・ベジャン (Pierre Jacques Antoine Béchamp, 1816 - 1908 年パリ) は、フランスの医師、化学者、薬学者。microzymas 理論を唱え、後の微生物学の先駆者となった。



ルイ・パスツール (Louis Pasteur, 1822 - 1895 年) フランスの生化学者・細菌学者。「科学には国境はないが、科学者には祖国がある」という言葉で知られる。

論した。

体内の善玉悪玉の細菌バランス崩壊が、病気の原因で、体内環境が健全良好ならば、外から侵入しても繁殖も発病もしない、と主張。「腸内細菌」の存在が、ほとんど解明されていない暗黒時代に、予見し、確信し、発表したのだった。

しかし、彼は歴史から抹殺された。学問の権威と経済の追及には、パスツール説が、好都合だったのだ。格好の学説としてこのパスツールは、国際金融資本家達に迎え容れられたのだった。

それは、細菌感染症の研究から、抗ウイルス剤の発明があり、この150年間に於いて医薬製剤界の巨大利権が発生し暗躍した。抗生物質の投与は、次なる耐性菌を産み、更に強力な殺菌剤が出現。その繰り返しで、製薬会社の利潤システムが膨れ上がる一方であった。だが、これにより人類は、体内常在菌が死滅して免疫力が低下する一方。病が病を呼び、死が死を重ねて、感染症は薬物連鎖により、その終結が見えなくなった。薬物利権に巣食う影の暗躍者が笑うのみだ。医学の進歩に比して、どうして病気が激増するのか、不思議に思わないだろうか。正に、その集大成こそ、今回のコロナ・パンデミック、ワクチン狂騒曲だった。

パスツール説

ベジアン説

	病原体説 (主流となる)	細胞説 (排除されて来た)
1、病気は	体外の微生物から発生	体内の細胞内の微生物から発生
2、微生物は	一般的に防御するもの	身体の代謝過程を構築したりし、補助の機能を持つ
3、微生物の機能は	一定	宿主生物の死や怪我で、生物の異化(分解) プロセスを助け変化する
4、微生物の形色は	一定	媒体を反映して変える
5、すべての病気は、	特定の微生物と関連	特定の条件に関連
6、微生物は	病気の主な原因物質	宿主生物の健康状態が悪化すると「病原性」を持つ第一原因物質
7、病気は	誰にでも降りかかる	不健康な状態が作り出す
8、病気を予防するには	防除を構築しなくてはならない	健康を作らなくてはならない

「現代正統医学」が今日も固執している「病原菌説」の父であるルイ・パスツール。彼は死の床に臨んで告白した。

「我が理論は誤りだった。正当化のため、自ら実験を操作した！」

何という事であろうか。人生の最期、慚愧の念と後悔の責めの呪縛から自らを解き放ちたかった。そして、讒言ざんげんのように、

「微生物は何もない、土壌と地形が全てだ！」。

「感染症ではない。患者を治療して欲しい！！！」と言ひ残して。

しかし、この良心の呵責を、後進の誰もが聴かず、耳を塞いでしまった。これが、現代医学の原点である。コロナ・ワクチンもここから始まっている。この遺言を、このコロナ禍騒動を起している政治家、携わる医療家、係る患者や国民社会に、再びと報せたい。

ルイ・パスツール
「微生物は何もない。土地がすべてである」ーパスツール最後の遺言 (病理細菌の父)

アントワース・ベジアン
「ウイルスでなく患者を治療して」

細菌病理説 or **自己免疫疾患説**

細菌説 予防接種した魚

地形理論 洗浄した鉢

DRJOCKERS.COM
SUPERCHARGE YOUR HEALTH

十五、もう一人、現代医学の立役者

先述の森下医学博士は、現代医学による崩壊者に、もう一人の名を挙げています。

驚くべきことに、その人の名こそ、「白衣の天使」「近代看護教育の母」と言われたフローレンス・ナイチンゲールであった。

博士の説をそのまま引用しよう。

「健康な兵士が砲弾に当たって倒れた場合、手術して鉄砲玉を摘出し、後は傷口を消毒しさえすれば、1〜2カ月で元通りになる」と想定されますが、その発想をそのまま慢性病に持ち込んだことこそが、西洋医学を失敗に導いた要因なのです。

19世紀半ば、クリミア戦争でのナイチンゲールたちの活躍ぶりが大々的に世界



フローレンス・ナイチンゲール (Florence Nightingale, 1820 - 1910 年) は、イギリスの看護婦、社会起業家、統計学者、看護教育学者。近代看護教育の母。「光掲げる貴婦人」、「クリミアの天使」と称されており、病院建築でも非凡な才能を発揮した。

に報道され、彼女達が余りにも有名になり過ぎました。医学も彼女たちの方式でいい——という考え方になってしまった。ナイチンゲールが成功した事が、現代医学を失敗せしめる大きな原因にもなったのです。若者が砲弾で倒れた戦傷者と、加齢・過労・美食・加工食品(食品添加物)・農薬付野菜・治療薬剤・ストレス等の累積結果による慢性病とは、明らかに異質の病気です。

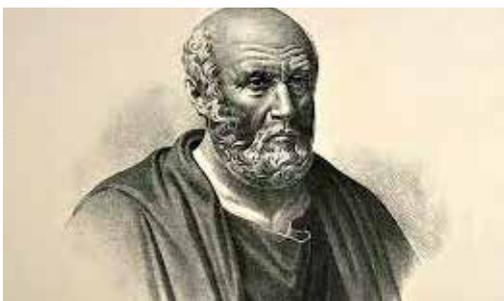
「戦陣医学」とか「ナイチンゲール医学」とか名付けていますが、現状も不変です。

現代社会では、悪い所を取って薬を付けるか飲ませるかしたら、それで治る——というかなり乱暴な考えが定着してしまいました。慢性病患者にそんなことをやったらどんどん悪くなっていくだけです。慢性病の種類も病人の数も激増している現状こそが、「ナイチンゲール医学」を導入した結果なのです。

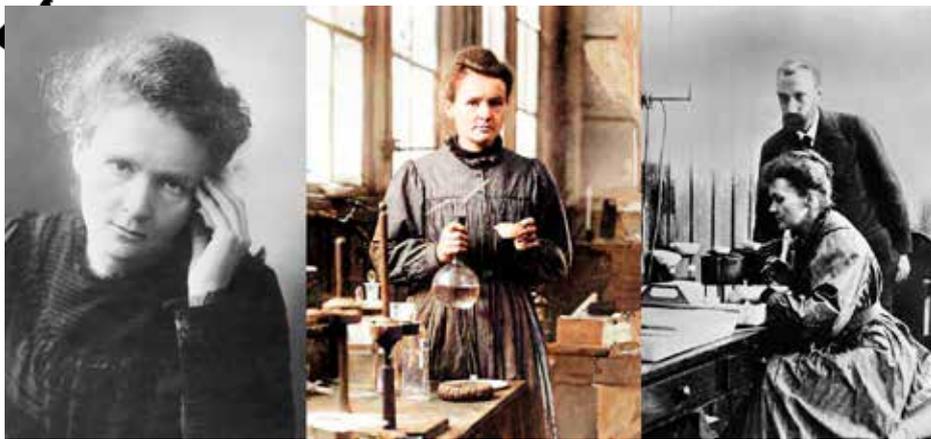
悪い所の病巣を摘出する典型的な対症療法。外側から消毒しても効かないから、口から飲ませる、注射する、まさに「生命機械論」です。

西洋医学が、自動車修理のような災害外科には有効でも、慢性病を治しているのではなく、造っているのです。化学薬剤ではなく、水や食物で自然治癒力をどんどん活性化して正常化して行くことこそが、医聖・ヒポクラテス以降、教えられて来た【医学の王道】です。私は、それをやっているつもりです」と。

〔續倭詩〕
「水とは医学」
森下敬一×船瀬俊介×宮下周平鼎談より)

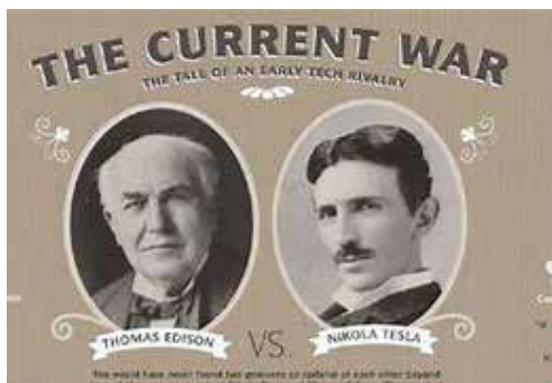


ヒポクラテス (ヒッポクラテース: Hippocrates, 紀元前 460 年ごろ - 紀元前 370 年ごろ) は古代ギリシアの医者。



マリア・サロメア・スクウォドフスカ＝キュリー (Maria Salomea Skłodowska-Curie, 1867 - 1934年) ポーランド出身の物理学者・化学者。放射線の研究で、1903年のノーベル物理学賞、1911年のノーベル化学賞を受賞、パリ大学初の女性教授職に就任。

まさに、これまでのコロナ対応の筋道こそ、その場凌ぎの「戦陣医学」の連鎖であり、結果であった。西洋医学のあらゆる発想が、人を物質的生物と捉え、自然との一体の生命体と捉えられない限界があったのだ。そして今、「医は仁術」でなく、「愛なき『利権』である」ことに、深い悲しみを覚える。



直流 VS 交流の闘いでエジソンに勝ったテスラも、歴史の間に消された。

小学生の頃、時を忘れるように読んだ『世界伝記全集』。その中のキュリー夫人やナイチンゲールの無私の精神と愛の行為に、どれほど勇気と希望を少年少女の心に灯しただろうか。だ

そして、ナイチンゲールもまた国際金融資本の伊・メデイチ家の一族であったことに衝撃を受ける。先端の統計学者でもあった彼女は、数値化の裏表を知って女王や政治家を動かした。さらに、二度のノーベル賞を受賞したキュリー夫人も又、ロスチャイルド一族で、ラジウム研究は50年後、アインシュタインの理論通り、原爆として広島・長崎に投下された。この死の計画もまたロス家のシナリオ通りだった。



毎月一冊発行の『少年少女世界伝記全集』(講談社)を楽しみにして、夢中になって読んだ

が、憧れの的、天才と言われた偉人たちも、みな文明の光を灯す如く、実は無明の闇をも灯していたとは。今となっては、全ての価値観がひっくり返ってしまったのだ。

今一度、東洋哲学の扉、「無為自然」の世界観が、これほどまでに白日の下に、西洋物質文明とくつきり明暗が分かれ、浮き彫りにされるとは。

それは60年目、人生一巡して明らかになったことだ。

正にコペルニクス的大転換なのだ。

全体の中の一点の原因を探ることが、近現代文明の追求発展の原動力ではなかったか。

学問でも、経済でも、何もかもが。しかし、そこが誤りであった。

「全体そのものが原因で、即結果である」ことが真理だった。

これからの新文明は、ここに根差すだろう。

— 第三段 —

身近なことから始めよう！

これで、今回のお話の締めくくりとします。

十六、自己管理

ここからは、もっと身近な自分の生活に戻りましょう。

最初のテーマ、今回のコロナ禍で、私の問題提起「自殺をどう防ぐか」でした。

自粛、マスク、ワクチン等々では、何時までも収まらない。

コロナに罹らないようにするのではなく、罹っても負けない体を作る、戻すことが大切なことが分かりました。人生、消極策より積極策です。

閉じ籠るより、外に出て兎に角、元気印になることです。

結局、医療に頼っても、「99%現代医療では分からない」と医師本人が匙を投げている、白

自己管理

- ✕ 罹らないようにする消極策
- 罹っても負けないようにする積極策

自殺から**元気印**に！！！！

99%現代医療では分からない

腸内細菌 免疫の**70%** 食べモノ/革命

スマホ表面一番くっつく **スマホ**依存を絶つ！

旗を立てているのです。先のPCR検査の「何をやっているのか分からない」と医師が告白しているのと同じなのです。

人に頼らない。まずは、外に出て五大の気に当たる、そのエネルギーを頂く。

そして、腸内を花園に変えてしまう。そのためには、良いものを食べる。そして、食べ過ぎないで、間を置く。最後、電磁波生活から遠のく。

畑仕事人間一番性に合っているのです。家庭にポット一鉢でもいいから植物を育ててみませんか。スマホ日常から、自分を解放させる。いわば、情報生活の牢獄から、何もない無の自分からスタートさせる。地球創世記にリセットさせるくらいの新鮮な気持ちから、始めましょう。

これこそが、真の「The Great Reset」なのです。

十七、さて、身近から第一歩 ルーティンから

ここで、誰でもできる自己大改造を提案します。自分革命です。

ルーティン 人生好転の三原則 生活リズムの継続

① 早寝・早起き

② 朝早く、人気ない戸外でマスクを外して 外気を吸い込み、朝日を拝み、歩く。

③ 規則正しく食べる 食べ足りないも、食べ過ぎもダメ！！

具合が悪い時は、一食抜く→すごく楽になる

● 一番困難なこと！！！！

甘いものを削る、絶つ！ → コロナの格好のエサ
ケーキ、甘いお菓子、清涼飲料水、アルコール
さて、出来るかな？！



でも、大層なことは一個もないんです。極々当たり前のことの提案です。

昔から、誰もがやっていることです。ですから、続け易いのです。

これを「ルーティン」と言いますね。イチロー選手が偉大な記録を残したのは、この同じ事を、同じ時刻に、同じ場所でする習慣性の賜物で、それを貫けるか否かのことだけだったのですね。

名付けて「人生好転の三原則」です。

① 早寝・早起きです。

コツは、兎に角、早寝することです。すると、当然早起きになってきます。すると、三文が転がっているんですね(笑)。早朝は、人生を変えます。明るくします。希望が出てきます。それだけで効果満点。早起きして文章を書く、スルスルと神様に書かされているような感じになるんですね(笑)これ、功德です。何もしないでいいから、先ずは、早寝しましょう。ここがスタートライン。



② 外に出る。

朝早く人気のない戸外で、マスクをせず、外気を胸一杯に吸い込む。肺の底まで吸い込む。次に朝日を拝む。朝日が出てくるまでに、外に出ること。この朝日が、飛んでもないエネルギーを発散しているんです。半導体素子研究者であった寺山心一翁という方が、この朝のお日様に拝礼するだけで、わずか3か月で腎臓ガンを克服、消えてしまったんです。

ね。偉力甚大です。

実際、コロナ克服に太陽光によるビタミンD効果、分けても北海道の人は冬場ビタミンD₃を40分照射されなければ不足になると言われています。陽浴しましょう。そして、歩く。歩き続ける。汗をかくまで、歩いて帰る。それだけでも、朝ご飯が美味しいですね。

③ 規則正しく食べる。

本来は、お腹が空いて食べるのがベストです。食事の間を16時間空けると病気が知らずになるとも言われています。医者知らずの最高の予防医学です。

ここでは、特に若い人が、不規則で体調不良になりがちなので、きちっと食べましょう。何事もそれからです。食べ足りないのも、食べ過ぎもいけません。とにかく、具合が悪くなると、あれがイイ、これがイイと探す前に、まず食を絶つこと。一食でも二食でも食べない。すると、元の調子に戻ります。胃腸を休ませてあげると、何を食べるべきかが、自ずから分かりま

す。それが、体の欲している食べ物です。



④ 最後に、これは若い女の子に。

(大学の講義で、女学生が多かった為)

ケーキやお菓子や清涼飲料水など、絶えますか、少なく出来ますか。これら、糖分はコロナの格好のエサなんです。でも、頭脳活動に、糖分は必要です。しかし、摂り過ぎはカロリー過多で、調子を崩しがちになります。甘いものは要注意。何事もホドホドが大切です。



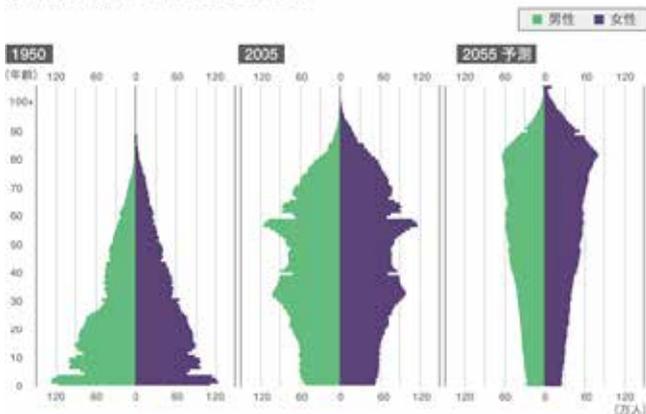
十八、フレイルを防ごう！！

現代社会は、超高齢化社会です。

2008年には人口減少が始まり、高齢化が加速され、2065年には、全人口の約25%が75歳以上の後期高齢者になり、高齢化率も38%を超えるとの推計が出ています。日本の高齢化率は世界でも大変高く、今後もハイスピードで進んでいきます。

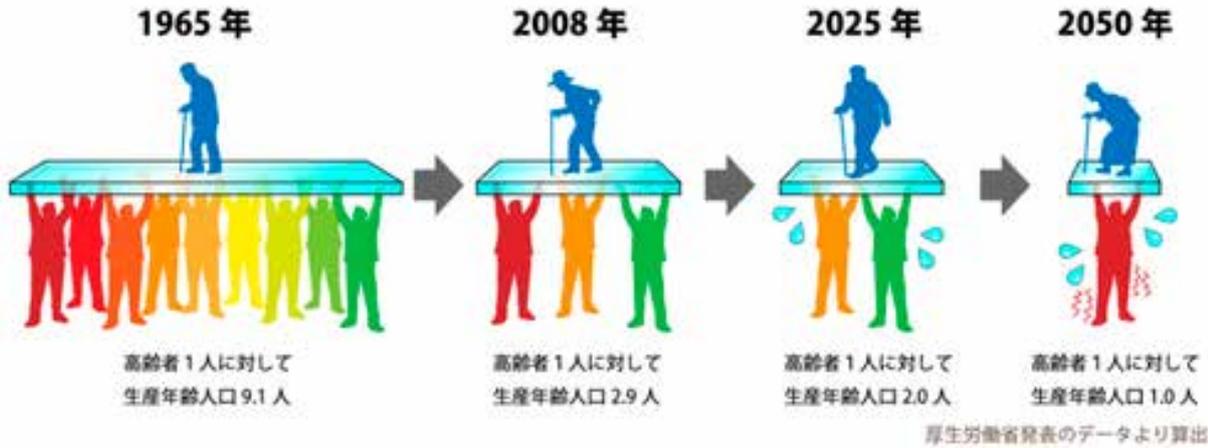
これは、他人ごとではないのです。若い人も30年後には、自らも高齢化して、なお二人分の稼ぎを稼がねば、成り立たない厳しい世の中に

急激に形を変える日本の人口ピラミッド



国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」(平成24年1月推計)をもとに編集部作成 © nippon.com

70歳と生きる



なります。

そこで、最も大切なこと。「年寄りヨ、自立しよう！人の世話になるな！！」という事です。そのためには、日頃から、足腰を鍛えねばなりません。

フレイル、すなわち老衰・虚弱を自ら防ごう運動です。

コロナで、自粛すれば、益々免疫力が下がります。世間の「自粛・引きこもりセヨ」の薦めに乗らない！！ うっかり、乗って楽すれば、後につけが回って、足腰が絶たず、歩けなくなりますよ。負んぶに抱っこでは、子供に迷惑をかけます。自立・自歩。何時になっても独立の気概を持ちましょう。そしてPPK。ピン・ピン・コロリで、最期は楽に逝きましょう。目指すは、往生極楽です(笑)。

兎に角、歩く。外出。恐れない。

そして、大いに食べる、飲む。人生をエンジョイする。他の人々と睦み合う。

趣味に、お話に、ボランティアに社会貢献、新しい世界にチャレンジして学ぼう。最後の最後まで、学びの歓びを得よう。

フレイル(老衰虚弱)を防ごう!!

自粛、引き籠りの勧めにのらない!
これは**危険!!**

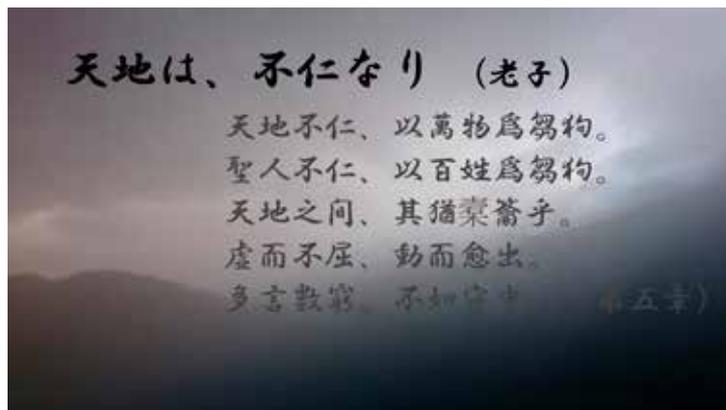


フレイル予防に必要な3つのこと



基礎体力低下 →
大いに外出!
大いに歩く!!

十九、生理が変われば、
死は消える！



老子は、
「天地は不仁なり」と言い、片や
「天地は母なり」とも説いている。
秋霜烈日のように厳しき父、
春風駘蕩のように優しき母。
それは子供を撫育する

突き放す父の姿、
引き寄せる母の心であるのだ。

コロナの世もまた厳しくもあるが、
その背景は、優しき愛に満たされている。
それを感じ得るのは、

あなたの中に眠る生命力、
即ち、免疫力なのだ。

困難に立ち向かう勇氣、
絶望に立ち上がる希望、
それが父母の愛。

その結晶を授かったのが、
あなたの健康、あなたの生命なのだ。

体が変われば、心も変わる。

生きんとすれば、死は消える。

自分に生きる炎が燃えれば、死の闇は消える。

コロナを、

新時代への扉にしよう。

あなたの新生活の門出にしよう。

明日のあなたに、おめでとう！！

長きご静聴、ありがとうございました。

(終わります)

